

# 令和7年度 愛媛・大分交流会議 議事録

開催日時：令和7年9月30日（火） 15:10～16:10

開催場所：大分県大分市佐賀関 JX 金属関崎みらい海星館 展望室

出席者：愛媛県知事 中村 時広

大分県知事 佐藤 樹一郎

## 1 開会

（大分県 企画振興部長）

定刻となりましたので、令和7年度愛媛・大分交流会議を開催いたします。

進行役を務めさせていただきます大分県企画振興部長の工藤でございます。どうぞよろしくをお願いします。

本日の会議は16時10分までとなっております。その後、この場で記者会見を予定しております。

それでは、開会にあたりまして佐藤知事よりご挨拶申し上げます。

## 2 開会あいさつ

（大分県 佐藤知事）

中村知事、今日はお忙しい中、東京から大分空港、そして、ホーバーに乗っていたき、ここ「関崎みらい海星館」までお越しくださり誠にありがとうございます。

昨年は、10月に私が松山市にお伺いしまして、「坂の上の雲ミュージアム」で意見交換をさせていただきました。大変有意義な議論ができましたことを感謝申し上げたいと思います。

本日の「関崎みらい海星館」ですが、子供の宇宙とか海洋に関する科学館のような作りでございまして、私が大分市長時代に改築をしようということで、先ほど見ていただいたプラネタリウムを備えたりですね、それから、新しい望遠鏡に変えたり、そういうことをやりまして、ちょうど、中村知事が「坂の上の雲ミュージアム」を松山市長の時に整備されたということですが、同じような形で、ここは大分市が管理している施設でございます。

ここから豊予海峡がすぐに見えまして、佐賀関半島から愛媛県の佐田岬半島が14kmの距離にあり、歴史的にも大変深い関係がありますけど、本日の会議を契機として、さらに、両県の交流が深まることを心から祈念申し上げ、また、お越しくださいましたことを重ねて感謝申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

（大分県 企画振興部長）

続きまして、意見交換に入らせていただきます。

意見交換については、佐藤知事に進行をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

### 3 意見交換

#### 1 観光振興

##### (1) 大阪・関西万博終了後を見据えた観光振興

(大分県 佐藤知事)

それでは早速、意見交換を進めさせていただきます。1つ目の議題、観光振興ということでございます。

この議題は、「大阪・関西万博後を見据えた観光振興」と「サイクリングを活用した観光促進のための広域連携」という2つの項目がございます。

まず「大阪・関西万博終了後を見据えた観光振興」につきまして、私の方から発言をさせていただきますと思います。

大分県の取組でございますけれども、万博を契機にお見えになった方にも、できるだけ大分に来ていただこう、或いは瀬戸内をPRしようということで取組をしました。

本日、中村知事に到着いただきました大分空港を「大分ハローキティ空港」として、世界的なキャラクターのハローキティを通じて世界に発信しようということでやっております。

万博期間限定ということだったのですが、非常に好評だったものですから、来年の3月31日まで延長され、その後もいろいろ検討していこうということになっております。

万博会場におきましては、「えひめ・おおいた交流事業実行委員会」による共同ブースの出展、これは愛媛県側の9市町と大分県側の9市町で構成されていて、観光資源、体験ブース、竹細工、伊方町の織物、宇和島市の予土線のすごろくなど、そういったものを出して大変多くの方々に楽しんでいただきました。

それから「大阪でのおんせん県おおいたフェア」での大分県産品等のPR、「九州7県の合同催事」ということで、温泉のPR、また、ハーモニーランドに加えて、アニメで非常に人気のある「進撃の巨人」についても、諫山さんという日田市出身の方が作家でありますので、そういったコンテンツを利用した発信も行っております。

それから、国際的な呼び込みということでは、ウェールズとか台湾とか、カナダのプリンス・エドワード島では、昨年、「グローバル・サステナブル・アイランズ・サミット」というのがありまして、その時に大分県の姫島という島が日本代表で参加しました。

その関係で、そちらはプリンスですけど、こちらはプリンセスですということで、非常にいろいろと意気投合しまして、今年、プリンス・エドワード島の首相に、大分県までお越しいただき、プリンス・エドワード島は、「赤毛のアン」の舞台となった島なのですが、赤毛のアンを翻訳した村岡花子さん、実は、この人の指導役が久留島武彦さんといいまして、大分県出身ということもあり、実際に県内の関連施設を見ていただきまして、そういう風なことをやっております。

加えて、空飛ぶクルマについて、これはスカイドライブ社と大分県とJR九州で協定を結んで、2028年度頃には別府湾を飛ばすということで、いろいろと準備をしておりますけれども、これらの連携をさらに進めていこうということでございます。

あと、教育交流ということでは、宇佐市文化観光大使のE X I L EのÜSAさん側から提案がありまして、この方は愛媛県でも活動していらっしゃるということで、教育分野でぜひ交流していったらどうだろうかというお話がありますので、そのような提案も踏まえて、ぜひ万博レガシーを効果的なものとするための、愛媛県と大分県の周遊ルートを作りまして、相互に誘客をしたり、さらなる農産品の共同発信をしたりとか、あと両県の高校生の交流とか、そういったことを進めていただけると大変ありがたいと思っている次第でございます。

私の方からは以上でございます。続きまして、中村知事からご発言をお願いいたします。

(愛媛県 中村知事)

今日は、開催準備にあたっていただいた佐藤知事を初め、大分県の皆さん本当にどうもありがとうございます。心から感謝申し上げたいと思います。

非常に新鮮な気持ちでホーバークラフトに乗らせていただいて、松山空港の場合は、日本で最も中心部と近い空港で20分しかかからない。大分県は1時間かかるということで、これをカバーするのは非常に大きなポイントだったんだろうなと。

それをただ短縮するだけでなく、観光コンテンツにも繋がるような大きな計画をされたこと、これから知名度が上がっていくと確実に人気が出るだろうなと感じておりました。いち早く乗れたこと、本当にうれしく思います。

(大分県 佐藤知事)

本当にありがとうございます。

(愛媛県 中村知事)

万博もあとわずかで終了いたしますけれども、愛媛県も新居浜市の太鼓台を出したり、四国中央市の書道部が書道パフォーマンスをやったり、それから先般は私も行きまして、芸術文化の新しい取組についてのご提案をさせていただいたり、様々な仕掛けをしていますけれども、そういう中で、今回、特に、滞在期間の長い欧米豪の観光客を、新幹線がない愛媛県にどう引っ張ったら良いのかというふうなことで、戦略を練る必要があると考えてました。

特に万博は多くの方がおられますので、そういった点も含めてのPRの機会をというふうにとらえていたんですけども、特にこの欧米豪につきましては、いろいろ分析をしますと、大阪、京都に来た方々が、新幹線に乗って、一旦、広島で降りるんですね。

広島で一泊して、そのまま九州の福岡に行って、それで帰ってしまうと、こういう流れが非常に多いということが分析でわかりました。

となると、大阪と東京も含めてなんですけど、大阪、京都から広島で1回泊まることに着目すればそれを南下させて愛媛に来れば、そのフェリーで、その後大分に渡って福岡から帰っていくっていう、逆もまたルートとしてあり得ると思うんですけど、この流れというのを

追いかけるのは非常に面白いマーケットになるんじゃないかなと。

となると、大分と愛媛の連携っていうものが、そこで大事になってくると。

大分は、県においても、すでに現地代理店を設置されたりして、愛媛も設置しましたので、ぜひ、この福岡—大分—愛媛—広島、広島—愛媛—大分—福岡っていう、こういうルートの商品開発とか、連携プレーが、追い求められたらなあというふうに思ってますんで、ぜひ、お互いの観光部門、或いはDMOなんかも連携しながら、こうした取組を強めていきたいなと思っていますところでございます。

また、先ほどお話がありましたように、大分は非常に愛媛とも縁が深いわけでありまして、1 つには、我々のおじいちゃんおばあちゃん世代になると、新婚旅行と言えば別府温泉と。

僕も子供の頃、幾度となく愛媛の松山の港から銅鑼の音を聞いて、新婚旅行で別府へ向かうカップルを見送った経験があるんですけども、そんな船で繋がった縁。それから、意外と柑橘を生産される方が、愛媛からこちらに移住して、そしてそれが歴史を刻んでいるという話も聞いたことがありまして、そういう意味では非常に縁が深いところでもございます。

また、大分から宇佐八幡宮の八幡さまが、64 日間、政争から逃れるために、船でお渡りになられて、愛媛県に来られて、その名残でつけられた市が八幡さまの、八幡浜市ということになりますので、歴史上でも非常に縁が深いのかなあというふうに思っています。

その中の ūSA さんの話が知事から出されましたけども、愛媛県でも、オドル野菜プロジェクトという、ūSA さんのプログラムを、もう既に 3 回開催してます。今治市、大洲市、伊予市と。全部、僕、出ているので、今回 ūSA ミットをこちらでやられるというのを聞いて、ぜひ愛媛も出展をとという呼びかけがあったんで、愛媛でブースを出すことにしましたので、鹿児島も出されるそうで、鹿児島もそのオドル野菜プロジェクトやられてますので、これをきっかけにまたご縁が深まればなあというふうにいるところでございます。

以上が万博以降の取組です。サイクリングはどうしましょう。

(大分県 佐藤知事)

では、併せてお願いします。

## **(2) サイクリングを活用した誘客促進のための広域連携**

(愛媛県 中村知事)

サイクリングについては、そもそも仕掛けたのは 10 年ぐらい前になるんですけども、当時、ロードバイクやクロスバイクでサイクリングするっていうのは、どちらかといえば、若い、特別な人というのが日本のサイクリング環境だったと記憶してます。ところが欧州へ行きますと、もう本当におじいちゃんおばあちゃんが、サイクリストとして、クロスバイクやロードバイクに乗り、特に e バイクが普及してからは、70 歳以上の方々にその裾野がどんどん広がっていて、大変大きなマーケットになっているようでございます。

10 数年前にしまなみ海道を世界に発信したいという願いで仕事を始めたんですけども、

3つ四国に橋が架かってるんですが、あそこが唯一、サイクリングロードを有していますので、徹底的にこれを磨き込もうということで始めました。

無茶もやったんですけど、例えば、当初は広島もそこは知事無理だろうって言われたんですが、高速道路を止めちゃえと。高速道路を止めて、自転車で1日自由に走らせる空間を作ろうっていうようなことにトライしたり、いろんなことをやってきた結果、現在、世界7大サイクリングコースの1つに、アメリカのCNN放送局がしまなみ海道を選んでいただきまして、この知名度によって、欧米豪からのサイクリストが非常に増えてきているという状況にあります。

愛媛では第1段階でしまなみ海道をサイクリストの聖地にする。第2段階で、愛媛県をサイクリングパラダイスにする。第3段階で、四国をサイクリングアイランドにすると。

短期・中期・長期のプランで進めてきたんですけども、その途中に大分県さんにも、ブルーラインの設置とか共通ツールを活用して、結びついていったらどうかなっていうのをお話をさせていただいて、今、いろんな連携が始まっているところなので、ぜひこれをまたさらに一層進めさせていただいたらなあというふうに思っております。

特に欧米豪については、非常にサイクリングは大きなコンテンツになり得ますし、大分県の本当にこの海岸沿いの道や、また山を越えての道なんかは、もうサイクリングには絶景ポイントが山ほどあるなということを痛感してます。

そんな中、2年後になりますけども、ずっと誘致をしていたんですが、世界で最も大きな自転車会議、これ、「Velo-city」という会議になりますけども、基本的にはヨーロッパでの持ち回りの開催なんですけども、今回、初めて日本開催になりますけども、愛媛県で2年後にこの「Velo-city」が開催されることになりました。

これ参加者が全体で大体1,500人ぐらいになると思うのですが、まちづくり、自転車を活用したまちづくりが主要議題になります。

4日間、世界会議が行われまして、バイクパレードっていう、みんなで走るパレードを行うというのが定番になってるんですけども。もちろんヨーロッパから千人ぐらい来ると思います。

かつ、日本の自治体にも呼びかけて、自転車を活用したまちづくりの議論をしませんかということで、かなり多くの自治体も参加されるのではなかろうかと思えますんで、大いに人脈を作る機会もあるかと思えますんで、「Velo-city」の参加をいただけたら幸いに思います。

(大分県 佐藤知事)

はい。ありがとうございました。

まず観光の関係でありますけれども。例えば、柑橘のお話を先ほどいただきましたけど、大分県でもみかんづくりが盛んですが、愛媛県の農業大学校に行って勉強して、そして柑橘の栽培についていろいろ学んで、大分に戻ってきて、そして事業をどんどん大きくしてるという方も多いです。

また、愛媛県から来ていただいて、ずっと広げていっていただく方も多いということで、農業の分野では昔からそういった関係が深いというのは、私も伺いしております。

それから、例えば病院の利用とか、色々な理由で海を渡って来てくださるという話も聞いていますし、中村知事も大分県のハーモニーランド等に奥様と一緒にいらしたことがあるというふうに伺っています。

大分県からも愛媛県の道後温泉に行ったり、松山踊りに行ったりしていますので、こういう関係をさらに高めていくということは本当に大事なことだと思いますし、USAさんの件は、良い機会になるので、教育含めて、ぜひよろしくお願いできればと思います。

それからサイクリングは、中村知事がずっと力を入れられて、「サイクリングしまなみ」、これは日本最大のサイクリングイベントと伺っておりますけど、昨年は大分県からもブース出展させていただきましたし、2年後の「Velo-city」も、ぜひ大分県からも参加させていただいて、仲間に入れていただけるとありがたいなと思います。

大分県の方も、サイクリングとか自転車を使ったまちづくりとか、あと「ツール・ド・九州」というのを3年前からやっております。これは、九州経済連合会等の九州地方戦略会議が主導でやってるのですが、大分県は最初からずっと入っておりまして、今年は3回目になります。

宮崎県延岡市から出発して、大分県佐伯市でゴールするという、県境を跨いで宮崎県と一緒にやるような、これはサイクリングではなくてむしろレースで、UCI、国際自転車競技連合の公認レースということで、そういうレースとかサイクリングを使ったまちおこしは、これまでも取り組んでおりますし、これからさらに進められればと思います。

そういった意味でも、例えば、しまなみで渡って、ぐるりと回って、またフェリーで戻っていくとか、瀬戸内のところは先ほど観光でもお話いただきましたけど、やはり、広島県と福岡県と、全部入れていくとちょうどサークルになるんですね。サークルのコースというのが、つながっているということは、やはり大変重要だと思いますので、まず、サイクリング、それから観光の両面を含めて、そういった取組ができればと思いますので、何卒よろしくお願いを申し上げたいと思います。

やはり新たな周遊ルートですね、先ほどの「ツール・ド・九州」でも、やまなみハイウェイという道があるんですけど、由布院から熊本県の阿蘇までずっと繋がっていきます。

こういったところをレースで使ったりしておりまして、例えば、豊予のところは今、フェリーになりますけど、そういうものも使って、ぐるりと周れるような、そういうものをプロモーションしていくとか、サイクリングの魅力を使ったまちづくり、まちの活性化っていうのをぜひ進めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(愛媛県 中村知事)

本当に、今回、非常に大きな共有ができたのは大変うれしいなと思っています。

特に先ほどお触れいただいた、流れが京都—大阪—広島—福岡、さようならですから、これを下を持ってくることによって、大分・愛媛の周遊ルートがもし軌道に乗ったら、これ面白い流れになってくるかなというふうに思いますので、ぜひこれを進めていきたいなと思ってますので、よろしくお願いします。

## 2 防災・減災対策

### 伊方発電所の安全対策及び防災対策

(大分県 佐藤知事)

それでは、次の議題ということで、2つ目が防災・減災でございます。

この議題は、まず伊方発電所の安全対策及び防災対策ということで、意見交換させていただければと思います。これにつきましても、中村知事からまずご発言お願いできますでしょうか。

(愛媛県 中村知事)

四国では、唯一の原発が伊方発電所になりますけども、ちょうど私が就任した3か月後に東日本大震災が防災しました。

ですから就任当時は、もう原発の安全対策に向き合い続けるような、数年間だったように思います。

その分、非常に安全対策にはこだわりが強くなって、独自の安全対策をかなり四国電力には求めてきた経緯があります。

もう本当に目の前に存在してますので、大分県の皆さんにとっても心配な問題だと思いますので、この機会に少しこれまでの経緯も触れさせていただきたいと思います。

そもそも国が求める安全基準というのは必要最低条件であると、これは基本でございます。

地形等々によって、当然原発ごとの安全対策は変わってくると考えていましたので、四国電力に対しては、国の基準を順守するのは当然のことながら、我々の求めるアディショナルな安全対策をいろいろと要求し、すべて実現をしていただいています。

例えば、東日本大震災のときに、揺れ対応をどうするかという議論がございました。

それまでは、基準地震動 570 ガルで作られていたのですが、それでは足りないっていうので国の基準が 650 ガルまで引き上げられております。これは、必要最低条件。

我々が求めたのは、国の新たな指針を待つことなく更なる揺れ対策を実施していただきたいという要請をしています。

その結果、伊方3号機につきましては、概ね 1000 ガルの基準地震動に耐えうる補強工事、国は求めてなかったのですが、既に実施済みでございます。

それから、東日本大震災のときの教訓として、電源が喪失したことによって抑えがきかなくなると。

電源さえあれば最悪、海水をぶっかけて、二度と使用不能にはなりますが、冷却すること

で暴走は止められると。

東日本のときは、それができなかったのが致命傷だったということが明らかになっていますので、国はこれをカバーするために、全国一律に大型の移動式ディーゼル発電車を設置することを義務づけました。これは、必要最低条件であります。

こちらでも国が求めていなかったのですが、更なる電源対策を要請いたしました。

その結果、ちょうど伊方発電所の上に亀浦変電所という変電所があります。そこから1号機2号機3号機に新たな配電線を設置してもらいました。

これもすでに完了しておりますので、国が求めている以上の電源ルートを、伊方の場合は作っておりますので、最悪これを動かしてでも、どれかを動かして海水ぶっかけて、冷却機能を維持するという体制をとっています。

それから、これは大分県の皆さんもお考えのとおりです。もともとこの豊後水道は、特に伊方前面の海域は水深が80mぐらいしかありません。太平洋で起こった、太平洋のプレート地震は海底1万メートル。そもそもの水量が全く異なります。

伊方の場合は、プレートも前面にあるわけではないので、跳ね上げによる大津波の心配は、前面海域では起こらないと。そもそも、水量そのものが少ないということもあって、中央構造線断層帯を震源とする地震が発生したときの伊方発電所に押し寄せる最大津波が8.1mぐらいだったと思います。

しかも伊方の場合は、そもそも海拔10mのところに設置をされていますので、伊方発電所に津波によって、何もかも失う心配は、東日本の福島と同じようなことはない。これは言い切って構わないと思います。

ただ揺れのリスクは、同様にあるので先ほどの1000ガル対応の補強工事をしていると。これが今現在の実態であります。

もう1点は、絶対に隠し事はさせないということで、全国の原発で唯一行っている通報連絡体制というのが確立されています。伊方発電所内で何かの異変が起こったときは、些細なことでも、通常、他の全国の原発は、本社の広報に連絡が行く仕組みになっています。

本社の方で、それをプレス発表すると、広報部がやるということになっているのですが、伊方は全く違った形態をとってしまっていて、本社と同時に愛媛県庁に連絡が入ることになっています。愛媛県庁に連絡が入って、公表も全部県庁でやります。

ある一定のルールは作っているのですが、県庁が広報を買って出ることによって、隠し事は決してさせないと。

もしここを間違ったハンドリングした場合は、信頼関係は木っ端微塵に吹き飛ぶということは常に四国電力には申し上げておりますので、そういう意味で、決して隠し事をさせない連絡体制が確立されていることも、大分の皆さんにはご報告として挙げさせていただきたいと思います。

そこで去年もですね、念には念をとということで、避難訓練は毎年実施しているのですが、特に大分県さんには、相当配慮していただいて、伊方町民を避難した、受け入れをしていた



だくような取組も進めていただいたこと本当に県を代表して感謝を申し上げたいと思います。

今年がですね、国と合同の原子力総合防災訓練、これを今年度実施する予定にしておりますので、これは総理大臣トップでやるという運びになりますので、またご協力をいただけたら幸いに思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

その他の事項については、そうですね。伊方1号機、2号機については、かなり年数は経っていますので、廃炉が決定ということで、廃炉には相当時間がかかりますけれども、しっかりと対応を進めていきたいというふうに思っています。

伊方3号機については、昨年12月に運転開始から30年ということですので、しっかりとこの現在の状況の安全確認、そして最新の知見での対策実施をこれからも求め続けていきたいと思っています。

そして最後に、乾式貯蔵と使用済燃料についてですけども、乾式貯蔵は、基本的にこれまではですね、ご案内のとおり、冷却プールで燃料棒を管理していましたが、どんどんどんどん増えてですね、再処理ができないので、もういつかは満杯になると。

それに変わりうるのが乾式貯蔵なのですが、国に対して一時的な保管であるということを確認にさせていただかない限りこれは認めないということで、確認にさせていただいていきます。

あくまでも一時保管と、乾式貯蔵の場合は15年ぐらいかけてプールで冷却をしたものを貯蔵しますので、プールで冷やす必要がなくなって、非常にそういう意味では、プールの冷却機能が喪失して燃料が溶融するような心配がない。

だから、安全ではありますので、その辺はこの前、現地に行って確認をしてきました。ちゃんとした対策が行われておりまして、ここも揺れ対策1000ガルの耐震性が確保された乾式貯蔵の保管庫が作られていましたので、これは私の責任でご報告をさせていただきたいと思います。

最終処分については、もうこれは国に知事会でも申し上げたのですが、とにかく国が動かなかったらどうにもならないので、最終処分については、しっかり議論を進めていただきたいということは、全国知事会でも要請を続けていきたいというふうに思います。

以上です。

(大分県 佐藤知事)

はい。ありがとうございました。

1000ガルの補強でありますとか、あと隠し事をしないというのが、安全安心の面でも大事だと思いますので、そのような取組をしていただいていますことに対しまして改めて感謝申し上げます。避難訓練では、今お話いただきましたとおり、毎年、特に伊方発電所から西の方、半島ですので、船で避難をするということで、佐賀関に避難していたり、臼杵や別府だったりしておりますけれども、このような形で、あつてはいけな

とですけれども、あったときのために訓練をしっかりしていくということが大事だと思いますので、引き続きそのような訓練をされるときに私どももしっかり対応させていただければと思います。

それから、今年1月の2号機の補助建屋の火災のときも、早速、愛媛県庁からご連絡をいただきまして、迅速に連絡をいただいたことに対しても感謝申し上げます。

大分県のこの辺りというのは、例えば松山市よりも伊方発電所がはるかに近いわけですので、行政区は愛媛県ではありますが、やはり伊方発電所というのは大分県民にとっても大変重要な事項でございますので、引き続きお願いを申し上げます。

四国電力に対して、徹底をずっと要請していただいているということで引き続きお願いしたいと思いますし、また、異常事象などが発生したときには、引き続きご連絡いただければと思います。

国全体の防災訓練のときに、また大分県側に対する避難等があれば、私もしっかり対応させていただきたいと思いますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

(愛媛県 中村知事)

先日、防衛省にも行ってきたのですが、国との共同での総合防災訓練になりますので、可能な限り、自衛隊関連の或いは海上保安庁関連の船であるとか、最新のものを投入していただきたいという要請をしています。

前回の総合防災訓練が平成27年だったと思います。だから10年ぐらい前になるのですが、このときもLCACであるとか、もう最新の装備が投入されて、特に伊方の最大の弱点である海上避難については、大分県の協力がなければ何もできない状況でございますので、ぜひ全面的なご協力をいただけたら幸いです。

伊方も色々なことをやってまして、できるだけスピーディーに、外国人の方も結構多くなってきたので、避難所に来たときは、顔認証避難という、あっという間に、これ本当にプライバシーの問題と紙一重なんですけど、住民の皆さんが理解されて、避難の方が大事だということ導入したりですね、それから国に要請して、陸路における道路改良は順調に進んでいますけども、この海路だけは、一度ですね、規制庁にも申し上げたのですが、もしものことがあった場合に、海の場合、どちらに行ったらいいかという判断は放射線量で決まるはずじゃないですかと。

だから、海の上でも測定できるような、何かを考えていただきたいという要請を続けてたのですが、なかなかこれ固定するのが難しいらしくて、検討の結果、海路避難前に海上保安庁等の船舶上で要員がモニタリングを実施することが実現しています。

そういったものを含めて、西側に行くのか東側に行くのかは、判断されていくと思うので、常日頃からの受け入れも含めた訓練が、積み重ねておくことが非常に重要なと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

(大分県 佐藤知事)

本当に風向と言いますか、風がどっちからどっちに吹いているかや、色々な要素が出てきて、そのためのシミュレーションのプログラムなんかも、国側で、やったりしていますけれども、やはり実際にいろいろ想定をして、それに応じて訓練をしていくということは大変重要になると思います。

引き続きぜひよろしくお願いいたします。

(大分県 企画振興部長)

私から1点、ご紹介をよろしいでしょうか。

平成27年度から、愛媛県さんと大分県で職員の相互交流をさせていただいております。

今年度は、本県の危機管理室に貴県の職員に来ていただいております。

(愛媛県からの派遣職員)

貴重なお時間をいただきありがとうございます。

引き続き、愛媛県と大分県の架け橋となれるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

(愛媛県 企画振興部長)

本県の職員が大変お世話になっております。

奇しくも総合防災訓練を10年ほど前に行った頃からの交流ということで、これからも末永く交流が続くように、よろしくお願いいたします。

(大分県 佐藤知事)

こちらこそありがとうございます。

先ほど中村知事からお話がありました使用済核燃料は、あれは、一部分とかで六ヶ所村に持って行ったり、外に持って行ったりすることも必要ですか。

(愛媛県 中村知事)

多くはまだです。

(愛媛県 企画振興部長)

低レベルの放射性廃棄物は現在も搬出しています。

(愛媛県 中村知事)

国も国会議員も、本当に悠長だなあと考えていますんで、言い続けるしかないのじゃないかと思っていますね。

(大分県 佐藤知事)

これは本当に大変大事な課題でございますので、よろしくお願いします。

### 3 広域交通ネットワーク

#### 豊予海峡ルート構想の早期実現に向けた取組の推進

(大分県 佐藤知事)

3つ目の広域交通ネットワークの関係でございますが、これも今の話（伊方原発）の続きで、伊方の高門町長は、命の道でぜひ繋ぎたいというお話もずっといただいているところでございますけれども、豊予海峡ルート、ここから14キロ先で見えますけれども、これの実現に向けた取組を、私どももずっと取り組んでおりますし、また、期成会等で協力しながら、色々と取り組んでいただいているところでございます。

道とそれから新幹線と2つありまして、お配りしています資料を知事会のときにも何度か見ていただいて、ご意見もいただいたところでもありますけれども、やはりここをつないでいくということが、大分県、愛媛県のみならず、九州、四国、さらには関西や中国を含めて、日本全体の発展のために、大変重要だろうということで、取組をさらに強化をできればというふうに考えております。

一番後ろに、新幹線の絵とそれから高規格道路の絵と2つあるのですが、下側の道路の方をまず申し上げますと、九州の中九州横断道路っていうのは、豊後伊予道路に続く道であり、ずっと工事をしていまして、ちょっと時間がかかりますけど、大分県と熊本県の間も、大体120キロしかないので、いずれ高規格道路で繋がる。

四国も、大体ずっと高速道路網がループでできておりますので、九州と四国を豊後伊予道路でつなぐと、九州と四国の高速ネットワーク網がさらに繋がり、非常に大きな効果が期待できるのかなと思っています。

旧鉄建公団が9年間かけて調査したところによりますと、活断層がこの道路の北側の7キロぐらいのところにありますが、トンネルを掘って工事するのは可能という結論を鉄建公団時代に出しているんですけど、実は、昨年度、大分県が鉄建公団の資料を全部借りてきて、それを産業技術総合研究所に渡して、もう一度、精査してくださいということで検証しましたところ、当時の調査結果に問題はないということを言っていただいていますので、時々指摘をされます地震が心配じゃないかという点はですね、一応クリアされていると感じているところでございます。

そして、九州と中国を繋ぐプロジェクトで、下関北九州道路という計画がもう環境影響評価に入っているんですけど、国側においてもこれを進めていきながら、九州と四国を繋いでいくというところを、やはり、次のプロジェクトとして検討していくべきではないかという議論を国交省さんともしながら、そういう議論を中でもしていただいているようでございまして、災害に強い国土づくりとか、地域間の交流とか、そういう意味でも、やはりここをぜひ、下関北九州道路が、もう事業化になってきておりますので、それに続くプロジェクト

として進めていきたいなと考えている次第でございます。

このところについては、例えば、財務省と議論しますと、下関北九州道路も PFI の手法を取り入れてということになっているのだそうです。

ですから、民間の活力をどういうふうに活用しながら取り組んでいくかということが 1 つの大きなテーマだということでありまして、そのときには、費用がどのくらいかかるかとか、どういう工法があるかとかも重要でありますので、今年の大分県の予算で、工法の検討や、大体どのくらい費用がかかるか、交通量の推計などを、調査しています。

工法については、例えば、シールド工法や沈埋工法などいろいろありますが、どうも地質が結構硬いので、シールド工法はちょっと難しいみたいなんです。

そうしますと、ちょっと費用がかかるかなという議論はありますけど、色々な工法を使って工事したとき、まず第 1 に、どの方法で掘ることができるのかということと、前に大分市長のときに計算したら穴掘るだけだと 5,000 億円ぐらいで繋がるんですけど、当時も 5、6 年前ですので、また、費用が上がってきていますので、一体いくらぐらいで繋がるのかということとあわせて、交通量の推計を、例えばトラックや車が通る需要があるかということの調査も今してしまして、P F I も含めて、どういう提案ができるのかというのを検討していきたいなと思っています。

こういう取組によりまして、今、フェリーが一日に 16 便行ったり来たりしていますけど、需要がどんどん増えているという状況がありますので、5 年前の大分市長であったときの調査によると、B/C が高くなります。社会的割引率 4% で計算しても、1 を大きく超えるような B/C になるので、これは多分 P F I で十分成り立つような、そういうプロジェクトに、当時は少なくともなっている。コストが上がっていく状況でどうかということもちょっと検証しながら、また、いろいろ取組を進めていきたいなと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それから新幹線を資料の上段に記載しており、これも四国 4 県で取組をしておられることに対して心から敬意を表したいと思いますし、前からお願いしていますのは、ぜひ、四国新幹線、一応終点が大分県になっていますので、松山までまず来ないと、そこから先に来ないので、四国の取組を全面的に私どももご支援したいと思いますし、大分までということ踏まえて、いろいろ取組をしていただけるとありがたいなと思っている次第であります。

全国知事会で提案をさせていただきました、財源の話ですね。これもちょっと 1 枚紙を入れておりますけども、新幹線の財源ということで「貸付料算定の適正化」とか、それから国際観光旅客税、出国税が 1,000 円ぐらいですけど、これを上げて財源にできないかとか、それから 3 番目は非常にコントラバーシャルな話ではあるんですけど、4 億人ぐらい使っていますので、既存の利用者に 1,000 円ぐらい負担いただいて 4,000 億円ぐらい確保できますので、それもまた、まだ未整備のところに使えないだろうかとかいろんな議論を国においてしっかりしていただくことが必要だと思う。

その上で、今のスキームで整備をするというのは、九州の西九州新幹線なども非常に議論

になっておりますけど、なかなか無理なところもやはりあるのかなと。北陸新幹線についても、敦賀から大阪まで、小浜ルートなのか米原ルートなのかという中で、負担の議論が出ています。そういう負担も含めて議論をしていただいた上で、今の新幹線も進めないといけな  
いと思います。

新たな財源の議論を進めた上で、基本路線については、もともとの構想で進めていくということで、それぞれの県民が所得税や法人税など国税の形で負担をしながら整備をしているわけですから、やはりきちんと基本路線については整備し、格上げしていくということについて、まず、関係のそれぞれの期成会でありますとか、それから、まだ整備されていない基本路線を抱える自治体がしっかり団結をしながら取り組んでいくということが大事な  
なと思っております。

新幹線の方は基本計画路線のいろんな期成会がありますけど、そこの方々が一堂に会して国に対して意見を言うということも検討しております。

ぜひ四国新幹線の期成会の皆様、中村知事さんをはじめ、ご参加いただいて。

四国新幹線の期成会は非常にパワフルで、東京大会に長井会長をはじめ参加された際に、私もオブザーバー参加させていただきましたけど、今度は基本計画路線の人たちがみんな集まって意見を言うていくということも大事ななと思っております。

それからあわせて、今年の1月に、「九州・四国広域交通ネットワークシンポジウム」を開催したときは山名部長さんにお越しいただいて、ありがとうございました。

来年も同じように開催をしたいと思っております。いつも伊方町の高門町長さんが出てきていただいて、ずっといろんな豊予のところの議論をしていただいているんですけど、やはり連携をしながら取り組んでいきたい。

そして、先ほどこちっとお話をさせていただいたように、交通量とか工法とか、新幹線の財源とか、いろんな議論をこちらで積み重ねて、データの的には非常に信頼性の高いコンサルタントに頼んでやっているんですけど、そういうのもアウトプットが出てきつつありますので、また事務的に少しそういうのを勉強するような場を、大分県と愛媛県とで作っていただいて、しっかり事務的に積み上げたものを進めていくと、私どもとしては大変ありがたいと思っておりますので、そういうところもあわせて、ぜひご検討・ご協力いただけますとありがたいと思う次第であります。

私から以上です。

(愛媛県 中村知事)

豊予海峡ルート及び新幹線については、そもそもで言うと、均衡ある国土の発展という、限られた狭い土地の日本をどう生かしていこうかという当時の方々の考えた図面からスタートしたと思うんですけども、その中で、主要なルートとして第2国土軸構想というのが打ち上げられた一環で、この構想が浮上したと記憶しております。

当時から、技術的な詰め、また、それから随分と年月は経っていますけども、その段階で

も、技術的には実現可能と、こういうような方向性が打ち出されておりますので、そういった技術の面ではクリアできるのじゃないかなと。今さらに技術進歩がありますから、そんなふうには考えております。

現状の四国の状況を少し触れさせていただきたいんですけども、そういう第2国土軸形成の中で、これまでは四国の4県でも、本州からの新幹線をどうするかということで意見が分かれていた時期がありました。こっちのルートがあっちのルートがいい。

一昨年このルートについては、四国4県一致した意見になりまして、そこから一気に活動が急展開している状況にあります。

そもそも、先ほど四国に3本の橋がかかっているということを申し上げたんですが、瀬戸大橋、今、鉄道が通っていますけども、そもそも新幹線対応の橋になっているということでございます。

当時の時期から、やがて新幹線を通すためにということで設計をされた経緯があるので、ここを活用すれば、大きな、新たな橋が必要だというわけではないということでもあります。

そもそも新幹線っていうのは、九州はもうすでに、東側は別として、新幹線が導入されましたが、そもそも国鉄を分割民営化するときに新幹線がないエリアは大丈夫なんだろうかという議論は当時からありましたよね。

それで、問題になったのは北海道と四国と九州と、収益事業たる新幹線を持たないところが分割してやっていけるのかという議論がありました。

しかも当時は、今後も人口は増える、経済は成長する、当時の金利が大体、市中金利で、預けると定期預金で一般の人でも5~6%ついていた時代であります。

ここにお金を積み上げ、そこから生まれる5~6%の金利で稼ぎ出せる果実でバックアップしようというスキームがつくられて、分割民営化が進みました。

しかし、前提条件が全部狂ってしまったのはご案内の通りであります。人口は減り始めて、経済が停滞し、そして、金利は0%、マイナス金利と、こういう前提条件がすべて崩れ去っている。

もろに直撃を受けたのが、JR北海道とJR四国。九州は新幹線が開業したことによって、収益事業が手に入って、ここから脱出したということでございます。

だからこそ、四国新幹線や北海道新幹線の声が大きくなってはきているんですが、そもそも最近つくづく感じるんだけど、国家プロジェクトで動かすべき課題だと思うんですが、かつてのように、将来の夢を語って、大きなプロジェクトで、夢を追い求めて、活性化につなげていこうという、大胆さというものが、今の国から奪われてしまっているんじゃないかなと。

特に最近では、いろんなことやっていますが、出てくるのは、所得税減税や消費税・食品課税がゼロだとか、地方創生をやっている、未来の投資に繋がるのが地方創生であるにもかかわらず、お金が来た、期限までに使わなきゃいけない。しかし知恵がない。

そこで打ち出されるのは、商品券を配るか、給付金を出すか。こんなことやったらこの国

の発展なんかあり得るはずがないということを感じます。

だからこそ、この四国新幹線、九州の西側の新幹線、それから豊予海峡ルートみたいな、将来の成長に結びつくような、すぐできるわけじゃないけれども、言い続けるっていうのはすごく大事なんではないかなと思います。

おそらくこれ、新幹線にしても、豊予海峡トンネルにしても、我々が生きている間にできるとは思えないです。

でも、言い続けることによって実現する道が開かれるという視点で声を上げ続けていくっていうことがすごく大事で、そのためにはまず、国家プロジェクトは何ぞや、将来の日本の発展のために何をすべきか考えていただきたいという声を地方からどんどん上げていくっていうのが、今すごく大事なんではないかなと思っています。

であるがゆえに、声を一緒になって上げていくことには大いに賛同させていただきたいと思います。

それで、1月には全国大会があるということをお聞きしましたけれども、四国の整備促進期成会の出席を検討すると聞いていますので、私の方からもぜひ出席すべきだということ働きかけをさせていただきたいと思います。

この全国の新幹線の問題、そして豊予海峡ルートの問題、またしっかりと連携をさせていただきたいと思います。以上です。

(大分県 佐藤知事)

誠にありがとうございます。

私も全く同感でして、やはり将来に向けて国全体として、国が何を取り組んでいけるかということを、地方創生の中でその議論がなくて、すぐそれぞれの地域で頑張るのを国は後押ししますよとか、それぞれのところに交付金を配布しますよとか、そういう議論にどうもなってしまう。

昔の田園都市構想っていうのはそうではなくて、国全体としてそれぞれの全員としてどういうふうに繋いでいくかという議論が、大平総理のときはあったわけですね。

やはり、今、まさにそういう議論が求められていて、この20年、30年そういうことが行われなかったのが、成長力が大きく下方シフトしたというのが現実ではないかと思っています。これは、この前、石破総理と意見交換をさせていただいたときも、そういう議論をもっと知事会とすべきだったなと総理がおっしゃっておられましたけど、やはり知事会の場でも、また、いろんな場を通じて、国にも働きかけをしていきたいと思っていますし、国も今のままではやはりいけないんじゃないかというふうに、国交省の皆さんにしても、財政当局にしても思っている人も随分いるなというのを感じておりますので、ぜひ力を合わせて、取組をさせていただければありがたいなと思いますし、基本計画路線の全国大会は、各地域の期成会を数えてみると、羽越、奥羽、山陰、中国横断、それから四国、東九州ということで、6個ある。各地域の期成会自身が、こぞって参加していただくと、この間の四国新幹線の東京大会も大



変大きな力になったと思うんですけど、それがまた6倍になって10倍になって、国に対する働きかけになるかなと思います。また、ネットワークシンポジウムを今度、増田寛也さんに基調講演やっていただくことを予定してまして、こういう消滅都市とか地方のあり方を国の検討会の中でご指導された方が合わせてどうやって全国のネットワークを作っていくかということについての議論を、来年1月なんですけども、検討いただくということですので、ぜひ、一緒に検討を進めていただけるとありがたいなと思う次第であります。

それから、今度の10月2日は豊予海峡ルートの推進協議会で、要望活動もありまして、去年も副知事さんに一緒に来ていただきました。今回は、九州経済連合会と四国経済連合会も一緒に行っていただけると伺っていますので、大分県と愛媛県と九経連、四経連、こういうところが力を合わせて取組についての要望を進めていければと思います。

特に今、両方の経済連合会の会長さんが、九州の方も九州電力になっていますし、四国も四国電力ですね。九州と四国の先ほどの伊方原発の活用という意味でも、電力を共有しようというプロジェクトが、経済産業省の資源エネルギー庁の方で進められておりまして、要するに電線をつないでいかないといけないんですけど、それをつなぐのにやはり5,000億円ぐらいかかるという試算がされています。これは電力料金に乘せることによって整備しましょうってことになるんですけど、やっぱつなぐのに5,000億円ぐらいかかる。

ということであれば、豊予海峡の例えば豊後伊予道路を、トンネルでつなぐだけで、最低5,000億円ぐらいたと試算があり、合わせて行くとそれぞれやるのに比べますと負担が大幅に減りますから、そういうところも合わせて議論をすることによって、より一緒に進めていこうという機運が高まる。

できれば私はトンネルを自分の車で通りたいなと思っていますし、それから在任の間に何かこう目途がつくようなことがあるといいなと考えています。

例えば、東京湾の横断のトンネル、海ほたるも、みんな、いつになるともわからないと言っていたんですけど、ある日突然どんどん進み出したってということもあるようですので、どこで機が熟すのかわかりませんが、そういうところを目指して、やはり、少しでも早く、大分県側で言いますと、中九州横断道路というのができて、中津日田道路というのができる、そこから先、大きなプロジェクトというのは、ありません。

愛媛県さんも同じだと思うんですけど、大きなプロジェクトという意味では、要するに国家プロジェクトで進めてもらわなきゃいけないようなプロジェクトという意味ではやはり、このつなぐところが、プライオリティが一番になってくるんじゃないかなと思いますので、そういう気持ちで、取組をしていければいいと思っている次第でございます。

それでは、中村知事、大変ありがとうございました。今、お話伺っておりまして、大変私も全く賛同するご意見をいただきました。

それでは、予定されておりました議題本日これで終了させていただきますし、さらにこういう議論を進める上でも、例えば、交流会議の事務的な勉強会みたいなものを作っていたいて、前回も坂の上の雲ミュージアムでやらせていただいた際も、事務方の皆さんで夜中通

しで議論したと伺っておりますし、そういう事務的な勉強会の開催もぜひ検討していただいて、そしてさらに連携交流を深めていければと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。それでは、進行を事務局にお返しします。

#### 4 閉会あいさつ

(大分県 企画振興部長)

ありがとうございました。

最後に、閉会にあたり、中村知事からご挨拶をお願いいたします。

(愛媛県 中村知事)

本当に今日は、大分県で、両県の知事の会合を開催するにあたり、準備をしていただいた知事さん、また、現場の皆さん、ありがとうございました。心より感謝を申し上げます。

特にさっき、冒頭でも申し上げたのですが、ホーバークラフトに乗りながら、別府の町ってこんな風な形なんだとしみじみ見させていただいたり、あの辺りが高崎山か、あちらが由布院に繋がる山か、とか、懐かしい思い出が蘇ってきて、冒頭紹介いただいたように、本当に新婚の頃じゃなかったかなあ、家内と二人で行ったのが、八幡浜からフェリーに乗って、臼杵に行って、そこから、レンタカーを借りて、由布院に一泊して、それから、別府温泉に一泊して、高崎山に行って、ハーモニーランド行って、なんか色々なところを回って行ったことが昨日のここのように思い出されます。もう一つは、臼杵に一人旅に行ったことがあって、旅館でフグ食べて、温泉入って、石仏見て、宮崎まで行った、というようなこともあったなあという風なことが思い起こされますけど、本当に愛媛県側の風景、観光コンテンツと全然異なっているんで、違っているから、面白いんだ、ということをホーバークラフトからの風景を見ながら改めて思った次第でございます。

それから、こうした会議を通じて、フランクにそれぞれの言葉で話し合うというところから、色んなヒントが生まれるってのは、これまで幾度となく、体験してきたんで、今日、色んな話の中で、色んな接点がありましたんで、この会議を通じて、また、新たな取組、既存の取組の推進に結びつくことは間違いないと思っていますんで、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきますたいと思います。

(大分県 企画振興部長)

ありがとうございました。

今日は、ご覧の通りですね、絶好の好天の中で、穏やかな豊予海峡を見ながら、進めることができました。

それでは、以上を持ちまして、「令和7年度愛媛・大分交流会議」を終了いたします。

今日は、どうもありがとうございました。

## 5 終了後の共同記者会見

日時：令和7年9月30日（火）16:10～16:30

場所：大分県大分市佐賀関 JX 金属関崎みらい海星館 展望室

（大分県 企画振興部長）

引き続き、共同記者会見に入りたいと思います。

お時間は16時30分を目途に行いたいと思います。

ご質問のある方は挙手のうえ、社名とお名前を仰っていただいてからご質問をお願い致します。

（記者）

豊予海峡ルートの話で、両知事にお伺いします。

先ほどお話の中でも触れられておりましたが、構想が実現すれば、九州、四国、中国、関西と、西日本の大きな経済圏が生まれる想定があると思うんですが、改めまして、両知事の豊予海峡ルート実現の期待と展望についてお伺いします。

（大分県 佐藤知事）

やはり、九州、四国、それから中国、大阪まで含めて、ここがつながることによりまして、大きな発展が期待できる、大変重要なプロジェクトだというふうに思います。

これはそのみならず、やはり東京と名古屋と大阪がリニアで1時間でつながっていくということからすると、そこにつながるいろんな都市が、四国で言うと松山が四国で一番大きい50万の都市でしょうか。

（愛媛県 中村知事）

そうです。

（大分県 佐藤知事）

大分市で言うと48万、県で言うと100～110万ですけど、そういうところがつながっていく。

そして、いろんな道路のネットワークがさらにつながっていく上で、大きな日本全体の発展のための基盤になるようなプロジェクトだと思いますので、やはり国のプロジェクトとして、さっき中村知事の仰った通り、国が、国全体の発展のために行っていくプロジェクトとして、しっかり取組をして欲しいと思います。

（愛媛県 中村知事）

今すぐ実現可能ってわけじゃないんですけども、もうかねてから、先ほど申し上げたように、プランとしてはあったわけですから、技術的にも実現可能ということである以上は、声

を上げ続けるっていうことが大事だなという点。

それから、そのためにはやっぱりこれ、国の国家プロジェクトに位置付けられますので、最近の世界における日本の力の低下、これはもう顕著でありますし、僕が社会に出たときに、1982年ですけども、1988年に1人当たりのGDPは世界二位になったという年でもありました。

本当に日本の発展というのを実感した経済活動をしていた記憶があります。もともと総合商社の方にいたんですけども、そんな時代を経験しているからこそ、最近の比較論ではありますけども、質の豊かさとかはまだキープしているものの、或いは技術の高さはまだキープしているものの、具体的な数字で言えば、もう1人当たりのGDPは現在も22位ぐらいまで、落ち込んでしまっているという状況にありますので、そこにはやはり、広い視野に立った国家運営ビジョン、こういったものが欠落してなかなか見えてこない、過去の遺産を食いつぶしてしまっているような状況にあるのかなあというふうに思います。

だからこそ、こうした大胆な国家プロジェクトっていうのを、ぜひぜひ国だけでなく、国会議員の皆さんも、将来のことを考えて、思い切った大胆な政策を展開して欲しい。

そのために我々はきっかけとして声を上げ続ける必要があるんじゃないかなと思います。以上です。

(記者)

中村知事にお伺いします。

九州、熊本のTSMCをはじめ、半導体関係を中心に経済に勢いがある状況だと思うんですけども、この豊予海峡ルート、まあすぐにつていう話ではないと思うんですが、将来的にそれが実現することで、経済的な九州の活力というのを四国に引き込めるというところもあると思うんですが、その点について知事のご意見をお聞かせください。

(愛媛県 中村知事)

今ですら、東九州自動車道が開通したことによって、それ以前と以後では、交流人口が全然変わってきていると思います。

それを裏付けるのがフェリーの利用状況だと思うんですけども、本当にこれ、一応トラック輸送などの人の問題もあるんですけども、ぐると南九州から福岡まで行くよりは、船或いは道路、橋、それで横断したほうが時間的にも全然早いんですよ。

だから、こうしたようなルートの問題を考えると、何ていうか、これがもし海底で結ばれたときの物流面の効果、それから観光面の効果っていうのはもう間違いなくあると思います。

(記者)

佐藤知事にお伺いします。

この豊予海峡ルートについて、国による調査の開始を求められていると思いますが、その調査の開始時期について、目標はあるでしょうか。

(大分県 佐藤知事)

目標っていうか、いつまでにというのは示してもあんまり意味がないので、言わないんですけれども、やはり早急に進めてもらいたいと考えています。

新幹線の方の整備計画への格上げも同じでありまして、例えば四国も、四国4県は松山まで、岡山—高松—松山という、あとは高知、こういうルートでありますけど、それが進むと、それからももとの計画である大分までつなごうと、大分とつながると東九州新幹線で、北九州、福岡とつながったり、それから、宮崎、鹿児島とつながるわけですね。

そうすると、つながる効果がさらに相乗効果になって、全体の発展につながっていくということでもありますし、もう1つはやはり、例えば、住友化学が新居浜にありますけれども、大分にも同様に大きな工場があります。富士紡さんも同じで、西条と大分にあります。そういうところが、やはりフェリーで行き来をしたりするわけです。

フェリーでも、ある意味で大量に動く場合にはいいんですけれども、やはり迅速に動くということからすると、陸路であったり、新幹線であったりするというのが、時間距離を飛躍的に縮めますから、その効果というのは、それぞれの企業にとってもそれぞれの地域にとって重要な企業の活動にとっても、その地域で活動することの魅力性をより高めていくという効果も期待できると考えてます。

スケジュール的にはちょっといつまでっていうのはなく、早急に取り組んで欲しいというだけであります。

(記者)

引き続き、豊予海峡ルートについて佐藤知事の伺いします。

日本全体に大きな効果が出ると期待されていると、先ほどからお話があったと思うんですが、今回スーパーメガリージョン、いわゆる3大都市圏に対する、この大分—愛媛、九州—四国がつながることで、例えば3大都市圏に対する効果というのももちろんあると思うんですが、どういう効果が期待されてるのでしょうか。

(大分県 佐藤知事)

やはり首都圏直下型地震というのも大変心配があるし、首都機能をしっかり、東京から大阪は1時間でつながるわけですから、関西まできっちり広げていくということも、これから国づくり全体としては、災害に強いまちづくりでありますとか、より競争力のある国づくりということで必要になってくると思います。

そこに今度はつながっていく、四国とか九州の各都市の役割というのが重要になる。九州でいうと、やはり入口の福岡が今、陸路として3本目の下北道路で関係強化している。

そこが、もう1つリダンダンシーということで、第2国土軸、東海軸がもう1個できると、四国を通して、九州では大分が入口になる。

そのときに、大分は、やはり九州の中で一番東側にあります瀬戸内文化圏でありますから、九州全体の発展のために役立ちます。

そういうネットワークがつながっていくことによって、今ご質問がありましたけども、大阪に副首都構想ってありますけど、そのところをやはりもっとしっかりしていけないといけないという、そういう国全体ビジョンづくりというのが進んでいくはずなんです。

だから、副首都の大阪にもっと集中しましょうということじゃなくて、そこにどういうふうに、それぞれの四国九州の都市がつながっていくかということをあわせて議論をして、そして国全体のビジョンをもう一遍作っていくということが、地方創生ということなんじゃないかと思います。

(記者)

ありがとうございます。中村知事にお伺いします。

佐藤知事が掲げる豊予海峡ルートで、愛媛と大分がつながることで、先ほど観光であったり、物流の面で大きな影響があるとおっしゃっていましたが、今後大分県と愛媛県がつながることによる一番大きな効果は何でしょうか。両県がつながることのニーズは現在ありますでしょうか。

(愛媛県 中村知事)

先ほど申し上げましたように、もう本当に、東九州自動車道の完成によって大きく人・物流の流れが変わっています。

だから、もうフェリーの状況を見たってニーズはあると思いますね。

さらに、九州は四国よりも恵まれている点で、熊本の半導体工場もそうですし、これは大分にも影響が出てくるでしょうし、こうしたことが、企業群同士、愛媛にもそういった関連企業がありますから、結びついていくことによっての効果っていうのは、当然、陸続きになれば出てくると思っています。

でも、それ以上に、さっき申し上げたように、本当にこれ、大胆な国家プロジェクトを示していかなかったら、どんどん世界における日本の地位は低下することが避けられないんじゃないかなと思いますんで、この場とは関係ないんですけども、そういった骨太の議論が聞きたいと、今行われてる総裁選では思っています。

ただ残念ながら、今日の時点では、まだそういった大胆な議論というのがなかなか聞こえてこないのはすごく残念に思っています。

ありがとうございました。

(記者)

中村知事に2点お伺します。

1つはサイクリングの周遊ルートのご提案がありましたが、物理的にはつながっていない中で、どのような連携ですとか、形のイメージをされていますか。

2点目です。来年1月の全国の期成会の大会が大分県主導で開催されるということですが、先ほどのご発言は、知事ご自身の参加ということでしょうか。

(愛媛県 中村知事)

新幹線ですか。これ、四経連が参加しますので、四経連に対してということになると思います。私の方はまだ日程がわかりませんので。

サイクリングについては、そうですね1つには、サイクリングというものが随分と10年前と比べると、一般の方々に普及し始めて、特に、eバイクの普及というものが、本当にマーケットを拡大してきてるなということを痛感します。

しまなみ海道でもeバイクの普及によって峠越え、亀老山というのですが、一番景色のいいとこまでどんどん上がっていくようになりましたし、いわば、自分の自転車で乗る人は本格的なサイクリストかもしれませんけれども、レンタルサイクルの充実によって一般の人たちが楽しめる空間が生まれてきます。

それから、ちょうど四国と九州は、今の段階では船で結ばれてますから、この船に積み込んで移動する楽しさっていうのも、また別次元であると思うんですね。

例えば先般、東予港という、西条市に東予港という港が愛媛県にありますけども、ここと大阪の南港がフェリーで結ばれてます。

新造船を作るにあたって船会社に直談判したんですが、全部個室になってましてすべての日に自転車が持ち込めるような設計に変更していただきました。

こういった整備も民間レベルでも進み始めていくと、非常に身近な存在になっていくのかなあというふうに思います。

まだまだ日本では自転車って言うと、通勤、通学、買い物で使う移動手段としての価値が主流ですけども、欧米豪では、健康や生きがい、友情で結ばれるツールとして認識されてますんで、こうしたことについても、2年後に行われる「Velo-city」でも、広めていくことができたかなあというふうに思ってます。

(記者)

前回の両知事の会談の際に、東京一極集中の中で、限られた国土の中で発展していくという上で広域交通に関して地方に伸びしろがあるというようなお話がありましたが、改めまして東京一極集中の状況という観点を踏まえて、豊予海峡ルート構想を握っている両知事に一言ずつお願いします。

(大分県 佐藤知事)

東京自身もですね、発展をしていくということは重要だと思いますので、何か東京から追い出し政策ということではないんだろうなと思います。

ただ、やはり、人が多いので、投資が行われて、またそれで人が増えるという循環が首都圏にも顕著に現れておりますけれども、実は、先ほど来、お話がありますフェリーというのはどんどん利用者も増えて、16 便ありますけど利用者が増えているわけですね。

そういうニーズが高い、B/C で議論するのはどうかというのはありますが、そういうところでまだインフラの整備が行われてないところがあります。

そういうことについては、やはり国主導で、国全体の絵を描きながら投資をしていくということが望まれており、それによって首都圏の一極集中というのも自ずから是正をされていく、そういう形での地方創生を進めてもらいたい、議論してもらいたい、そういうふうに考えています。

(愛媛県 中村知事)

これ、知事会でも議論したんですけども、何も東京一極集中反対という、単純な話ではなくて、東京の繁栄を大いに望むところでして、国の首都が輝くというのは大事なことだと思います。

東京には財源が今集中していて、おそらく、財源で困った経験も、苦労した経験も地方と比べたら格段にないと思います。

その豊富な財源を、東京ならではの首都ならではの輝きを求めるために投資をするんだったら、大拍手です。

でも実際余っている財源は何に使われているのかを分析していくと、ばらまき政策ですよ。

あれもタダにします。これもタダにします。例えば、給食費はタダにします、医療費はタダにします。この前は水道料金もタダにしました。

それは、未来への投資につながっているかといえばそうではないと。

むしろ、東京がタダにしたから、大分もタダにしろ、愛媛もタダにしろ、絶対そうなっちゃうんですよ。

でも、他の地域にそんな財源はありません。それを求められて、実現に移したら、それはもう地方は財政破綻してしまいます。

だからこそもうすでにやられてしまったことの、子育てなんかに関連するものは、ナショナルスタンダードとして国がもう事実やって欲しいと。

ということを実現しないと、地方創生も何も 1 歩踏み出せないんですよ。もうみんなそういう声で、どんどん調べられますし、中にはですね、これは大分ではないのかもしれないけれども、例えばある町長選挙があったときに、私が当選すれば給食費は無料にしますという、通っちゃうんですよ。



この恐ろしさというものが、やがてまちづくりに影響を与えていくと思いますんで、やっぱり、未来への投資ということを地方は考えなければならないし、東京には東京の首都ならではの発展をして欲しいなというふうに思います。

であるがゆえに、偏在している財源をどうするのか、そして国土全体で見た発展をどうプログラムしていくのかっていう、国会議員の役割もすごく大きいと思うんですね。

だから、そういう議論を進めていただくためにも豊予海峡、或いは四国新幹線、こういう投げかけを、地方がしていくことがより重要になってきているんじゃないかなあと思っています。

(大分県 企画振興部長)

他にありますか。

それでは、以上をもちまして、共同記者会見を終了いたします。

本日は、大変ありがとうございました。

(両県知事)

ありがとうございました。

終了